

信州大学-Curtin University
大学間学術交流協定に基づく
平成 22 年度夏期海外単位認定プログラム実施報告書



信州大学



Curtin

-2010-



平成 23 年 2 月 1 日
信州大学医学部保健学科

【目次】

I. 学術交流にあたって	3
II. 学術交流の概要	4
III. カーティン大学の概要	6
IV. 平成 22 年度夏期海外単位認定プログラム	
1. はじめに	7
2. 夏期海外単位認定プログラム	
3. 研修期間	
4. 研修場所	
5. 研修プログラムの内容	8
6. 参加人数	9
7. 指導教員	
8. 研修費用	
9. 研修日程	10
10. 研修プログラム	11
11. 学生アンケート	14
12. 学生レポートおよび感想文	20
(編集後記)	



(表紙の写真は、研修最終日の修了式後、Curtin 大学にて)

I. 学術交流にあたって

信州大学医学部保健学科長 市川元基

昨年度はパンデミック 2009H1N1 型インフルエンザが、調度本プログラムが行われるオーストラリアの冬の時期に流行し、中止になりました。4年間の大学生活の中で本プログラムへの参加を心待ちにされていた学生さんたちには本当に申し訳なく思いました。本年度は看護学専攻8名、検査技術科学専攻4名、理学療法学専攻3名、作業療法学専攻4名の学生さんたちが参加され、西オーストラリア州パースのカーティン大学への海外短期単位認定プログラムが行われました。本年度参加された学生さんたちも事前学習を含めて一生懸命がんだり、有意義な留学生活を送り、貴重な体験をされたことと思います。是非この経験活かしてこれからも努力していただくことを望みます。

本プログラムの運営には、カーティン大学との事前交渉、プログラムの作成、学生へのプログラムの紹介、航空券の確保などの準備と、渡航中の学生さん達の安全と健康を気遣ってくれた教員や職員の努力が不可欠であり、これらのことに関わってくださった方々に感謝いたします。また本プロジェクトにご賛同いただき、学長裁量経費をご配慮くださった信州大学役員の皆様と基金を寄付してくださった信州大学医学部保健学科同窓会の皆様に深謝いたします。

「カーティン大学との学術交流を同総会は支援していきます」

保健学科同窓会長 川上由行

本年の西オーストラリア州パースにあるカーティン大学における海外短期単位認定プログラムは、8月14日(土)から9月4日(土)までの3週間で実施され滞りなく終了しました。参加学生は19名で、引率教員を含めた全員が元気で帰国しました。パースでの Curtin-Life を十分に満喫された学生さんには、掛け替えのない日々を体験されたことと思います。そしてこのプロジェクトの円滑運営に対して労力を惜しまずに支援された教員各位、そして実際に引率された教員各位には、毎年のことながら本当にお疲れさまでした。本プロジェクトは発足以来、着実に成果を上げて来ているのを実感させていただいております。昨年度末(2010年1月)には Nursing 学部のアラン先生を招聘して交流を深めることが出来ましたが、次回は Biomedical Sciences 学部のジェフ先生(血液学)を招聘する方向で準備が進められています。今後は更に教員相互間の学術交流、また本保健学科学生、また保健学専攻大学院生とカーティン大学の学生相互間での益々の有効的な交流へと進展して行くことを祈念しつつ、われわれ保健学科同総会は、この学術交流を支援して行きます。建設的な意見交換の中でこの素晴らしいプログラムがより一層の輝きを増していくことを信じています。

II. 学術交流の概要

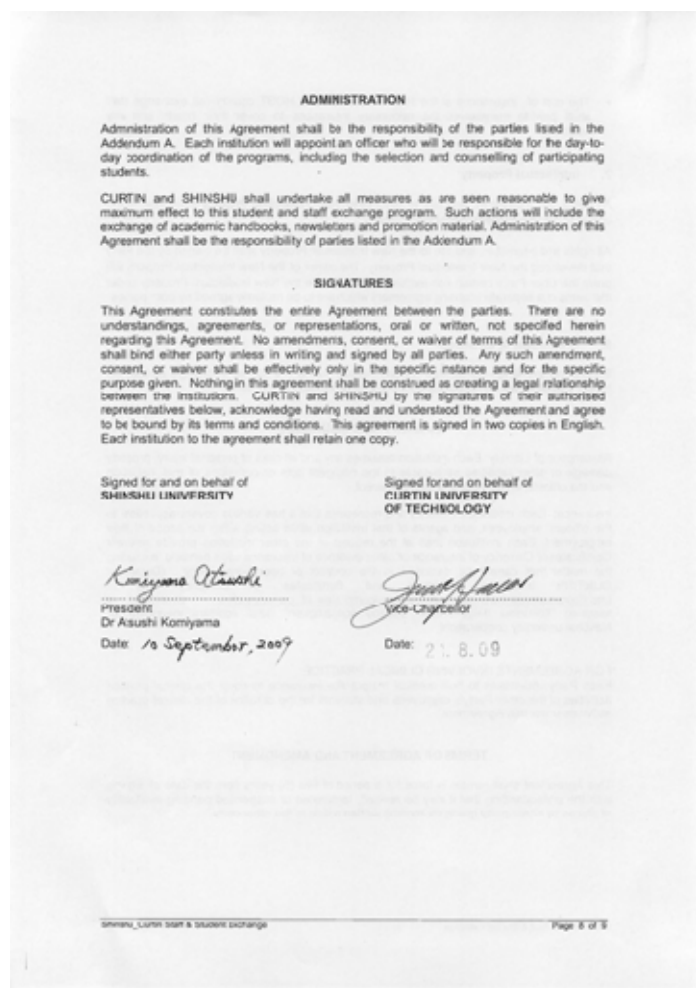
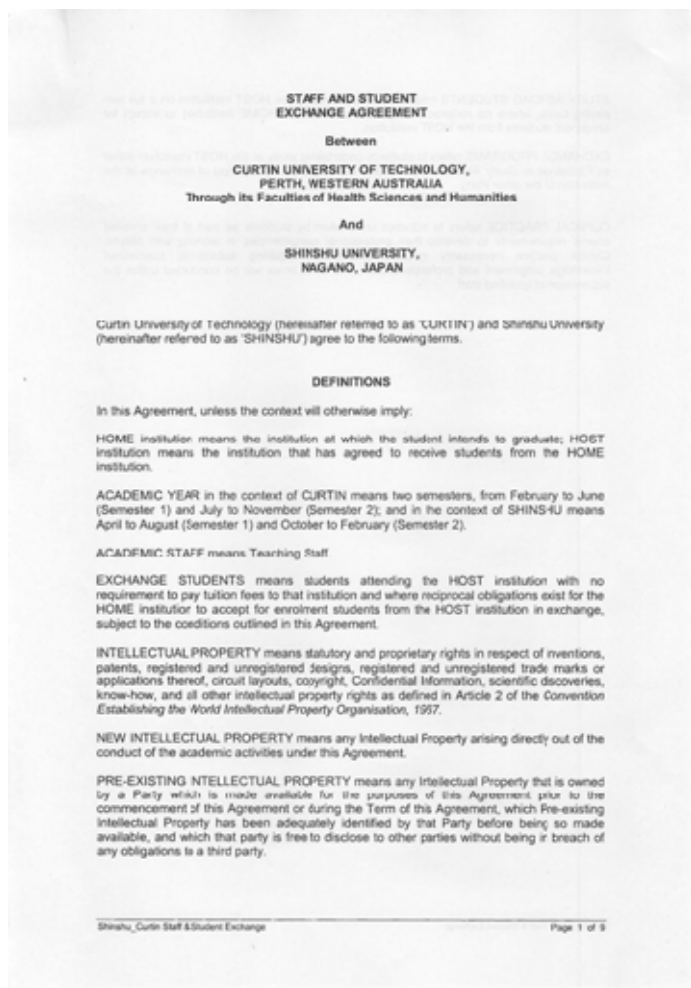
1. 学術交流協定及び学生の交流に関する覚書締結の経緯と交流実績

- 1) 1992年8月、イギリス、ロンドンで開催された第11回世界理学療法連盟学術集会に出席した信州大学医療技術短期大学部藤原孝之教授(現 郡山健康科学専門学校/東都国際ビジネス専門学校 理事・学校長)と、カーティン大学健康科学部ジョン・コール教授との間で教育・研究に関する情報交換が始まった。
- 2) 1997年3月、藤原孝之教授、楊箬隆哉教授(当時)およびゴウ・アー・チェン助手(現准教授)の3名が、カーティン工科大学副学長宛の本学学長親書を携え、健康科学部の遠隔地教育システムに関する資料収集、共同研究課題の打ち合わせを目的としてカーティン工科大学を訪問した。カーティン工科大学学長、健康科学部長、看護学科、医学検査学科、理学療法学科、作業療法学科等のスタッフとの会談の折り、両大学間の、より積極的な学術交流が話題となり、教員、学生交流の早期実現に向け検討することで合意した。
- 3) 1998年7月-8月、藤原孝之教授が文部省在外研究員派遣でカーティン工科大学健康科学部理学療法学科客員教授として滞在した折り、カーティン工科大学健康科学部スタッフミーティングに出席し、当該大学の多くの教官より大学間交流に関する質問を受け、同大学が信州大学との大学間学術交流に興味を示していることがわかった。
- 4) 1999年3月、本学藤原孝之、楊箬隆哉両教授がオーストラリアに出張した際、副学長ジョン・ミルトン・スミス教授、健康科学部長チャールズ・ワトソン教授、看護学科主任教授マイケル・ヘイゼルトン、理学療法学科主任教授ジョン・コール、国際教育課程担当パメラ・ロバーツ女史等と両大学間の学術交流推進を話題に会談した。両大学の資料を交換し検討した結果、単一学部間に留まらず、広い学際領域での学術交流を目指すことを目標にすることで合意した。その際、カーティン工科大学副学長から大学間協定に関する雛形文書を預かった。
- 5) 1999年4月、学術交流協定を締結した。
- 6) 1999年5月、横浜で開催された第13回世界理学療法連盟学術集会に特別講演演者として来日したジョン・コール教授が、信州大学を表敬訪問し特別講義を行った。
- 7) 2000年8月、学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書を締結。同9月、宮坂敏夫教授(短期大学部長)以下教官、学生20名がカーティン工科大学を表敬訪問し、各学局の国際交流担当者と短期留学の可能性を協議した。帰国後、部長のもとに5名からなるチームを置き、プログラムの実施計画を作成した。
- 8) 2001年8月、信州大学医療技術短期大学部学生32名がカーティン工科大学にて第1回夏季留学・単位認定プログラムに参加した。
- 9) 2002年(第2回)は27名、2003年(第3回)は24名、2004年(第4回)は20名、2005年(第5回)は29名、2006年(第6回)は28名、2007年(第7回)は15名および信大附属病院看護師2名、2008年(第8回)は31名(内大学院生2名)、2010年(第9回)は19名が夏季留学・単位認定プログラムに参加した。
- 10) カーティン教員招へい;2007年1~2月、国際教育課程ディレクター パメラ・ロバーツ、2010年1月、国際教育課程ディレクター アラン・トルク

2. 学術交流協定及び教員と学生の交流に関する協定書の更新

1999年4月に締結された学術交流協定及び2000年8月に締結された学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書は、2004年4月に信州大学とカーティン工科大学の間で、「学術交流協定」及び「学術交流協定に基づく教員と学生の交流に関する協定書」として更新され、2009年には信州大学国際交流センターを窓口とした大学間協定となり、夏期研修プログラムとカーティン教員招へいが医学部保健学科とカーティン大学 ELICOS・健康科学部により企画・実施され、両校の交流は一層親密に深められることになった。

教員と学生の交流に関する協定書（2009.9）



Ⅲ. カーティン大学の概要

1. 設立

- 1) 1967年: The Western Australian Institute of Technology (WAIT) として創設。
- 2) 1987年: Curtin University of Technology (カーティン工科大学) となる。
- 3) 2010年: Curtin University となる。

*カーティン工科大学の名称は、オーストラリア首相を歴任したジョン・カーティン創設者に由来する。パースは日本でも古くから遠洋漁業の基地として知られている。広大なキャンパスを有機的に機能させるため、学内に国際教育担当部門を独立させ、情報ネットワークを整備し、国内外の教育研究機関と遠隔地教育・研究を推進している。1996年から、シンガポール、マレーシア、インドネシア、香港等の教育機関とインターネットを利用した学位取得課程を展開し、実績を上げている。大学院教育では、卓越した教育プログラムが評価され、非英語圏のみならずアメリカ、カナダ、ヨーロッパの留学生も相当数在学している。

2. 位置

- 1) 西オーストラリア州唯一の工科大学(公立)
- 2) メインキャンパスはパース(Perth: 西オーストラリア州の州都。人口約120万)の郊外ベントレー(Bentley; 中心部より10キロ南東へ位置、海岸まで車で20分)に立地し、他にPerth 中心部の大学院キャンパスとその他のキャンパス(Kalgoorlie, Muresk, Sydney, Sarawak; Malaysia)を有する。

Address: Kent Street, Bentley, WA6102, Perth, Western Australia

TEL : 08-9266-9266

HP-address: <http://www.curtin.edu.au/>

3. 学部等

- 1) 学部: 経営学部, 健康科学部, 人文学部, 理工学部, 先住民研究
- 2) 大学院: 経営学, 健康科学, 人文科学, 理工学

4. 学生数および教職員数(2009年度)

- 1) 学生数: 44,471人(現地留学生数: 107ヶ国, 8,809人)
- 2) 教員数: 1,247人
- 3) 職員数: 1,685人

IV. 平成 22 年度夏期海外単位認定プログラム

1. はじめに

信州大学-カーティン工科大学間学術交流協定にもとづき、平成 22 年度夏季海外単位認定プログラムが平成 22 年 8 月 14 日から 9 月 4 日の約 3 週間にわたり、カーティン大学及びパース市内外の関連施設・病院で実施された。本年のプログラムには 19 名の信州大学医学部保健学科学生が参加した。

カーティン大学での単位認定プログラムの実施にあたり、5 月から 7 月にかけて、単位認定プログラム全般のオリエンテーション、研修内容の説明、研修間経資料の配布と事前学習の説明が行われた。

2. 夏期海外単位認定プログラム

- 1) 目的：他大学・文化での学習・生活体験を通じ、国際的視点から医療従事者としての態度を涵養する。
- 2) 本学における単位認定：国際医療協力論の単位として認定する。単位認定には、カーティン大学での全てのプログラムに参加することとし、研修レポートの提出が必須である。

3. 研修期間

研修期間：平成 22 年 8 月 14 日(土)～9 月 4 日(土)，22 日間

4. 研修場所

- 1) 研修キャンパス；カーティン大学ベントレーキャンパス
- 2) 見学施設/演習場所(3週目)：
(全専攻共通)

Princess Margaret Pediatrics Hospital, Perth

(看護学専攻)

Anatomy practical session, Curtin University

Skills labs: Professional Practice Contract (PPC), Curtin University

Regent's Garden Aged Care Facility, Bateman

King Edward Memorial Hospital, Subiaco

(検査技術科学専攻)

Royal Perth Hospital, Perth

Australian Red Cross Blood Donor Centre, Perth

(理学療法学専攻・作業療法学専攻)

Anatomy practical session, Curtin University

The Niche ILC, Perth

Community Based Physio Services Bentley Clinic, Curtin University

Physio Tutorial

Royal Perth Rehabilitation Hospital, Shenton Park

5. 研修プログラムの内容 (Curtin University)

第1週; Orientation & English Class/Hospital Communication for Health Professional (ELICOS*)

- ・カーティン大学および ELICOS のオリエンテーション。
- ・ELICOS による英語および医療英会話の授業。
- ・キャンパスツアー(図書館ツアー, 専攻別ツアー)。
- ・パース・バスツアー。

(* ELICOS: English Language Intensive Course for Overseas Students)

第2週 ; Hospital Communication for Health Professional /Combined Lectures

- ・ English for Health Professional (医療英語)
- ・保健医療領域の合同講義。
 - ① The Australian Health Care System
 - ② Careers in Biomedical Sciences
 - ③ Indigenous Health & Culture
 - ④ Auditing & Tutorials (看護・検査・理学・作業に分かれて, 講義の聴講)
- ・実習(検査: 血液検査学)
- ・Excursion(Swan Valley)

第3週; Combined Lectures

Tutorial, Practice, Clinical Visits & Graduation Ceremony

- ・アボリジニの文化とライフスタイルについての講義
- ・専攻別専門領域の講義
- ・実習(看護・理学・作業: 解剖学)
- ・施設見学
 - ① Princess Margaret Pediatrics Hospital, Perth
 - ② Regent's Garden Aged Care Facility, Bateman
 - ③ King Edward Memorial Hospital, Subiaco
 - ④ The Niche ILC, Perth
 - ⑤ Community Based Physio Services Bentley Clinic, Curtin University
 - ⑥ Royal Perth Rehabilitation Hospital, Shenton Park
 - ⑦ Australian Blood Donor Centre, Perth



(解剖学の講義)

6. 参加人数

看護学	:	8名(3年生6名, 4年生2名)
検査技術科学	:	4名(3年生4名)
理学療法学	:	3名(2年生1名, 3年生2名)
作業療法学	:	4名(2年生3名, 3年生1名)

合計	19名
----	-----

7. 引率指導教員

プログラム担当教員

大平雅美 教授, 奥野ひろみ 教授, Goh Ah Cheng 准教授, 羽山正義 准教授, 井口高志 講師,
政時和美 助教

8. 研修費用

研修費用

【内訳1】グループチケット利用

・往復航空運賃(グループチケット)	173,000円
・往復バス代	13,400円
・特別プログラム授業料	146,600円
英語クラス, 保健学共通講義, 専門別(看護, 検査技術, 理学療法, 作業療法)講義・実習, 施設見学(含む移動費用, 指導支援費用)	
・滞在費(3週間)	54,000円(ホームステイ, 食事込)
計	387,000円

【内訳2】ディスカウントチケット利用

・往復航空運賃(カンタスディスカウントチケット)	93,000円
・往復バス代	13,400円
・特別プログラム授業料	146,600円
英語クラス, 保健学共通講義, 専門別(看護, 検査技術, 理学療法, 作業療法)講義・実習, 施設見学(含む移動費用, 指導支援費用)	
・滞在費(3週間)	54,000円(ホームステイ, 食事込)
計	307,000円

現地プログラム担当教員4名分の航空運賃, 宿泊費は信州大学国際交流経費と保健学科同窓会等から計上された。

9. 研修日程

- ① 8月14日午前10時半に信州大学北門よりバスで出発し、午後4時半東京成田空港に到着した。QF（カンタス航空）70便で午後8時40分に成田空港を出発した。
- ② 8月15日午前6時00分にパース空港に到着した。その後、カーティン大学国際教育担当者の案内によるパース市内のバスツアーが行われ、カーティン大学でホームステイ先の家族（ホストファミリー）の出迎えがあり、各々がホームステイ先に向かった。学生はホストファミリーから、ホームステイ先での生活の規則、通学経路の案内（ホームステイ先は大学から徒歩20分の所からバスを乗り継ぎ約1時間かかる所までいろいろある）、周辺の案内などのオリエンテーションを受けた。
- ③ 8月16日カーティン大学にてオリエンテーション、学生カードの発行などが行なわれた。
- ④ 8月17日～9月3日にかけて、英語および医療英会話の授業、ヘルスケアに関する講義、保健医療領域の講義、専攻別の講義聴講、実習、チュートリアル及び施設見学のプログラムが実施された。プログラムの詳細をP11～13に示した。
- ⑤ 9月2日午後13時00分、Graduation Ceremony（修了証書授与式）が行なわれ、学生が一人ずつ英語でスピーチをした。続いてFarewell Lunchがあった。翌日9月3日は一日自主研修となり、学生はホームステイ先家族との最後の食事や各々で計画した市内へのツアーなどを行った。午後6時00分、ホストファミリーに送られてカーティン大学に集合して空港に向かい、午後11時00分QF79便にてパース空港を出発した。
- ⑤ 9月4日午前9時55分、東京成田空港に到着し、空港からバスで信州大学に向かい、午後5時に信州大学北門で解散した。



Curtin 大教員による Australian Health System の講義

10. 研修プログラム一覧



DEPARTMENT OF LANGUAGES AND INTERCULTURAL EDUCATION
 SHINSHU UNIVERSITY ENGLISH AND HEALTH SCIENCES STUDY TOUR PROGRAM
 AT CURTIN UNIVERSITY
 August 4 – September 4 2010

TIMETABLE

Week One: Nursing Group (Group A):

Time	Monday 16 Aug	Tuesday 17 Aug	Wednesday 18 Aug	Thursday 19 Aug	Friday 20 Aug
10.00 – 12.00	Orientation Welcome morning tea Curtin student cards & SmartRider Curd	English class: introduction to Australian Culture	English class	10am-11am Tour of Nursing facilities 11am-12pm MRSA Testing	English class
12.00–1.00	LUNCH				
1.00 – 3.00	OASIS login	English for health professionals	Library Tour	English for health professionals	Free

Week One: PT/OT/Biomed Group (Group B):

Time	Monday 16 Aug	Tuesday 17 Aug	Wednesday 18 Aug	Thursday 19 Aug	Friday 20 Aug
10.00 – 12.00	Orientation Welcome morning tea Curtin student cards & SmartRider Curd	English class: introduction to Australian Culture	English class	10am-11am Tour of Physio & Biomed facilities 11am-12pm MRSA Testing	English class
12.00–1.00	LUNCH				
1.00 – 3.00	OASIS login	English for health professionals	Library Tour	English for health professionals	Free

Week Two: Nursing Group (Group A)

Time	Monday 23 Aug	Tuesday 24 Aug	Wednesday 25 Aug	Thursday 26 Aug	Friday 27 Aug
10.00 – 12.00	8am - 9am Lecture: Primary Health Care Practice 9am-11am Tutorial (4 students) 10am-12pm Tutorial (4 students)	8am - 9am Lecture: Indigenous Health & Culture 9am - 10am Lecture: Health in Aging(simple wound care) 10am – 12pm Self Study	English for health professionals	English for health professionals	Excursion to the Swan Valley: Caversham Wildlife Park, Houghton winery & Margaret River Chocolate Factory
12.00–1.00	LUNCH				
1.00 – 3.00	Lecture: The Australian Health Care System	English for health professionals	Lecture: Careers in Biomedical Science	Self Study	

Week Two: PT/OT/ Biomed Group (Group B)

Time	Monday 23 Aug	Tuesday 24 Aug	Wednesday 25 Aug	Thursday 26 Aug	Friday 27 Aug
10.00 – 12.00	8am - 9am Lecture: Primary Health Care Practice(PT/OT) Pathology(Biomed) 9am-10am Lecture: Hematology(Biomed) 10am-12pm Lab: Musculoskeletal Science(PT/OT)	8am - 9am Lecture: Indigenous Health & Culture 9am - 10am Lecture: Health in Aging(simple wound care) 9am-12pm Hematology practice (Biomed)	English for health professionals	English for health professionals	Excursion to the Swan Valley: Caversham Wildlife Park, Houghton winery & Margaret River Chocolate Factory
12.00–1.00	LUNCH				
1.00 – 3.00	Lecture:	English for	Lecture:	Lab:	

	The Australian Health Care System prac sessions	health professionals	Careers in Biomedical Science	Anatomy & Pathology	
--	---	----------------------	-------------------------------	---------------------	--

Week Three: Nursing Group (Group A)

Time	Monday 30 Aug	Tuesday 31 Aug	Wednesday 1 Sep	Thursday 2 Sep	Friday 3 Sep
AM	10am-11am Morning Tea with Nursing staff & students	Visit: Regent's Garden Aged Care Facility	Skills labs: Professional Practice Contract (PPC)	Visit: King Edward Memorial Hospital	Free
12.00-1.00	LUNCH				
PM	1.30pm-3pm Guest Speaker: Aboriginal Culture and Lifestyle	1.30pm Visit: Princess Margaret Pediatrics Hospital	12pm - 2pm Anatomy practical session	Course evaluation Graduation & Farewell Lunch	

Week Three: PT and OT Group (Group B)

Time	Monday 30 Aug	Tuesday 31 Aug	Wednesday 1 Sep	Thursday 2 Sep	Friday 3 Sep
AM	Visit: The Niche ILC	Self study	9am - 11am Community Based Physio Services Bentley Clinic Physio Tutorial	Visit: Royal Perth Rehabilitation Hospital Shenton Park	Free
12.00-1.00	LUNCH				
PM	Guest Speaker: Aboriginal Culture and Lifestyle	1.30pm Visit: Princess Margaret Pediatrics Hospital	12pm - 2pm Anatomy practical session	Course evaluation Graduation & Farewell Lunch	

Week Three: Biomedical Sciences Group (Group C)

Time	Monday 30 Aug	Tuesday 31 Aug	Wednesday 1 Sep	Thursday 2 Sep	Friday 3 Sep
AM	10am-11am Morning Tea with Nursing staff & students	Self study 10.00-12.00	10.00-12.00 Visit: Australian Red Blood Donor Centre	10.00-12.00 Visit: Royal Perth Hospital	Free
12.00-1.00	LUNCH				
PM	Guest Speaker:	1.30pm	Free	Course	

	Aboriginal Culture and Lifestyle	Visit: Princess Margaret Pediatrics Hospital		evaluation Graduation & Farewell Lunch	
--	----------------------------------	--	--	--	--

11. 学生アンケート(N=15)

A 出発前の準備について

1 費用の捻出

	N	%
1) 家族が全額負担	2	13.3
2) 自己資金のみ	6	40
3) 自己資金と家族の支援	6	40
4) その他(奨学金)	1	6.6

2 渡豪前の自己学習

	N	%
1) 自己学習をした	10	66.6
2) 何もしなかった	5	33.3

3 研修プログラムの説明会

(4月の新入生・在校生オリエンテーション)

	N	%
1) 適切	15	100
2) 不適切	0	0

4 参加申込み締め切りの時期

	N	%
1) 適切	14	93.3
2) 不適切	1	6.6

5 出発前オリエンテーションの時期

	N	%
1) 適切	13	86.6
2) 不適切	2	13.3

6 オリエンテーションの内容

	N	%
1) 適切	11	73.3
2) 不適切	4	26.6

【事前学習した内容】

- ・英語(英文法, ホームステイでの英語, 日常英会話, TOEIC 受験)
- ・臓器や筋肉名, 骨格などの単語
- ・メディケアのシステム
- ・オーストラリアのPTについて
- ・オリエンテーションで紹介したホームページ(日本語)

【事前学習が必要だった内容】

- ・医療英語
- ・臓器や筋肉名, 骨格など英語名を知っているとよい。
- ・オーストラリアの医療全般・保健の仕組み
- ・メディケアのシステム
- ・AUの women's health
- ・アボリジニのこと

【4のコメント】

- ・もう少し猶予があっても良い。

【5のコメント】

- ・授業があっても全く参加できなかったの、大変かと思うのが複数回もしくは授業後にしてもらえると助かる。
- ・最終オリエンテーションの日時を早く教えてほしかった。
- ・テスト時期よりもっと前にして欲しい。

【6のコメント】

- ・もう少し気候についての知らせがほしかった。
- ・松本で両替をしようとしたら、手持ちのドルがないので数日かかるといわれ、結局空港で両替をした。両替がすぐにできないことをあらかじめ教えてもらいたい。
- ・寒さや服装をもう少しわしく説明してほしかった。
- ・パス, 等交通機関の料金, スマートライダーシステムについてもっと説明してほしかった。

B 自由記載分まとめ

1. 参加動機

1) 海外留学・生活・観光をしたかったから

・今まで外国に行ったことがなかった上に、このまま就職するとこんな長期外国に行くチャンスは今しかないと思ったから。

・海外での生活・ホームステイがしてみたかった。

・旅行・観光がしたかった。

2) 通常の旅行とは違うプログラムへの興味

・手続きから何から大学側がサポートしてくれて短期留学に行けるなんてめったにないことだったから。

・海外旅行はいつでも行けるかもしれないが、ホームステイや施設見学など、普通の旅行では経験できないため。

3) 海外の医療や病院・施設への興味

・海外の医療・留学に興味があったため。

・AUの医療システムに興味があったから。

・海外の医療の視点を知らなかった。

・海外の医療や大学での学び方など興味があり、また自分の語学力を磨くためにも参加したかったから。

・海外の医療系の大学の授業を受けたり、施設を見学することに魅力を感じたため。

・海外の医療施設が見たかった。

・外国の大学の授業や病院の見学等を通して、新たな視野で医療を見つめ、看護観を見直したかったから。

4) 文化の違いへの関心

・日本との違いを知りたかった。

・海外から、日本がどう見られているのかにも、興味があった。

・ホームステイをして文化や生活に触れること、英語でコミュニケーションをはかることも良い経験になると考えたため。

5) 英語などの学習機会を得るため

・大学卒業後の進路で院や企業に行くため、英語を学びたかったから。

・苦手な英語を克服するため。

・外国で生活することで積極性を身につけたかった(英語も)

・消極的な性格を直すため。

2. ホームステイについて

<よかったこと>

1) 異文化の体験ができた

・異文化(食事、習慣、宗教、経済状況、水不足など)を実際に体験し知ることができた。

・ホームステイを通じて、オーストラリアの人々の考え方、生活

の仕方などにふれることができた。

・マナーについての認識が深くなった。

・視野が広がった。

・様々な形の家族がいるということが改めて分かった。

・他にホームステイ先でホンコンから留学している子がいて、彼女との交流も非常に良い経験になった。

・教会のミサなどに行き、マザーの友人たちともコミュニケーションがとれた。

2) 英語を学ぶことができた

・英語が以前より聞き取れるようになったり、自分から積極的に話かせられるようになった。

・日常英語が身についた。

3) 英語を学ぶことのできる環境が得られた

・ホームステイをすることによって英語を使わなければならず友達とずっと一緒にいるよりも英語がより早く上達すると思うので良かったと。

・英語を身近に感じれた。友達ができた。

・英語しかしゃべることができない環境に自分を置けたこと。

・英語での会話をしようと、頭の中で英語を考えることが多かった。

4) 英語を学ぶ動機付けになった

・英語でのコミュニケーションは難しく感じたが、更に学ぶ必要があると感じ、良い刺激となった。

・英語は苦手だったが、ホストマザーとのコミュニケーションで、伝えたいことがちゃんと伝わったときはうれしかった。

5) 意欲や気持ちを伝えることの重要性が分かった

・言葉は通じなくても気持ちや思いが分かってもらえた。

・優柔不断なところがあったのが、ホームステイ先では自分の気持ちや選択をはっきり求められたので、自分で何かを決めることに対して、少し力がついた。

<困ったこと>

1) 英語を聞き取る難しさ

・日常会話が少し分かりづらかった。

・小さい子供の言葉を理解するのが難しくコミュニケーションをとるのに戸惑った。

2) 英語を使ったコミュニケーションの難しさ

・あまり要望を言うことができなかった。

・言葉が通じなかった。

・英語力の不足で言いたいことが言えず、もどかしかった。

・自分自身の力不足が原因ですが、英語が上手に伝わらなくて、話の食い違いにより、上手いかなかったことがあった。

・どうしても英語で伝わらない時に相手からストレートに感情を表出されたこと。

- ・人見知りするのであまり話せなかった。
- ・意思の疎通がうまくいかなかったこと。

3) ホストとの人間関係

- ・ホストマザーの機嫌をうかがう必要を感じたこと。具体的には、朝早いことに対する対処、晩ごはんが遅いことに対する対処、いつもごはんを、おいしいといわされている感覚が…少しだけあった。

4) 生活習慣の違い

- ・寒さ(部屋にストーブがなく、ゆたんぼのみで乗り切った)。
- ・水不足でシャワー5分、皿は泡がついた状態で干し、使用するのが最初慣れず、抵抗があった。
- ・ホストファミリーの友達や親戚の人が毎日のように来ていたこと。

5) ホストファミリーとのコミュニケーションの機会の少なさ

- ・家族と食事が一緒ではなく、忙しそうに見えて、話を少ししかできなかった。
- ・家族だけで外食に行ってしまうことがあった。

6) 受け入れ家庭の設備・ルールなど

- ・困ったわけではないが、ハウスルールが細かく感じた。
- ・ドライヤーがなかった。
- ・食事が多い。
- ・部屋に暖房がなくてとても寒かったこと。
- ・洗濯が1週間に1回しかできず、服が足りなかったこと。
- ・友達との連絡の手段がなかったこと(明日のこと等聞けなかった)。
- ・あまり家のパソコンを使用することをホストファミリーがよく思っていなかった。

<要望他>

- ・もう少し自由にごはんを食べたかった(冷蔵庫のものを食べて良いかわからなかった)。
- ・部屋が寒かった。(暖房がほしかった)。
- ・特になが、強いて言えばまた会いたい。
- ・もう少しホームステイ代を低くしてほしい。
- ・3週間も、一緒に住んでいれば色々なことがあるだろう。
- ・うまくコミュニケーションできなかった家があったようなので、そうしたことが起きた際のへの対応。

3. 3 週間のコースについて

<よかったこと>

1) 様々な英語学習の機会

- ・英語を話すということが楽しいなと感じ好きになった。
- ・外国の方とあんなにも話す機会が持ててよかった。
- ・海外での生活や英語でのコミュニケーションを体験すること

ができた。

・医療と英語の両方を学ぶことができ、また、大学とかではできなかった英会話を中心とする授業だったため、実践的であり、新鮮だった。

・英語の授業や医療を通して英語で話し合えた ことなど普通の留学と異なる点もありためになった。

・英語に対する苦手意識がなくなった。

・毎日一生懸命英語をつかって、人と会話してとても充実していたこと。

2) 学習へのモチベーションの高まり

・自分の学習について振り返ることができた。明確な目標を設定することができた。

・日本での生活とは全くことなる場所での生活は、すべてが新しいもので非常に興味深かった。

・他国の文化や生活、医療制度、大学での施設の大きさの違いなど様々なことを学び刺激をとっても受けた。そのことによって自分の知識の低さを学びモチベーションがあがった。

3) 授業内容

・日本では経験できないことや授業を実際に経験でき、とても勉強になった。

・授業はすでに学んだことだったのでわかりやすかった。

・海外の抱えている医療問題、健康問題を学ぶことができた。

4) 体験型の授業

・目で見て実際に行うという内容だったので分かりやすく、より臨床の場が想像しやすかった。

・解剖で献体を見ることができた。

・解剖学はあまり授業では実物を見れなかったので興味深かった。

・演習で創傷処置などの技術演習が体験できてよかった。

・オーストラリアでの採血の仕方が見れて良かった。

・一緒に実習をして、オーストラリアでの授業を体験できた。

5) 見学やキャンパスライフ

・施設見学は勉強になった(日本との違いをみることで)。

・遠足で動物園やワイナリー、チョコレートファクトリーに行けたこと。

・大学のカフェや学食でお茶したり、おしゃれなキャンパスライフが送れた。

・いろんな所に観光に行く時間やショッピングの時間も程よくあり、プログラムの中に入っていたこともよかった。

<困ったこと>

1) 気候

・気候が思ったより寒かったため、服装の調整に苦労した。

・朝、昼の寒暖の調節。

2) 英語と講義内容のレベル

- ・英語の授業の先生の英語がいつも聞き取れなくて、苦労した。
- ・先生方がネイティブな英語で話しているのを聞き取れず、いつも理解できず困った。通訳をしてほしいと思った。
- ・授業内容が英語でよくわからないことがあった。とくに解剖の授業は、筋肉や骨が中心で看護の学生にとっては難しかった。
- ・施設見学の説明で話すのが速い人は聴きとるのが大変だった。
- ・PTの授業を受けた時に、英語が聞き取りづらく、授業内容があまり理解できない時があった。

3) 授業のマネジメント

- ・カーティン大学の方で教室の伝え間違いがあり、受けられない授業があったこと。
- ・授業のレジュメをもらえるとうれしかった。

4) 生活全般

- ・ホームシックになったこと。友達のおかげでのりこえられた。
- ・遊ぶ時間が足りなかった！
- ・朝の講義開始時間が早くて、ホストファミリーの機嫌が悪くなったこと。

<要望他>

1) 講義プログラム・内容

- ・解剖の授業が、OT・PT中心だったので内容が骨・筋肉に偏っていて、看護としてはその中に臓器系の内容も含まれていると、なおよかった。
- ・授業の教室番号が間違っていて、授業を受けることができなかったことがあったので、今後そのようなことがないようにしてほしい。
- ・PT、OTとの合同ではあまり検査については触れてもらえない。
- ・基本的に血液学中心であったが、病理・遺伝子のラボや授業を受けたかった。
- ・もっと専攻の授業を受けたかった。
- ・もっとOTの学生と学んだり、施設に行きたかった。

2) 見学先

- ・病棟見学(内科や外科)がしたかった。
- ・看護の学生が見学に行った老人ホームにも、行ってみたいかった。
- ・医療施設見学で、高齢者施設をみたけれど、かなり高階層の人しか入れない所だったので、政府や公立のような、一般

的な方たちが入れる施設も見てみたかった(看護)。

- ・日本の子ども病院(安曇野市など)の見学をしたことがないので、比べることができなかった。比較基準を教えてください。
- ・病院見学で一般病棟も見てみたかった。救急なども(看護)。
- ・病院見学では検査部等も見せてほしい(検査)。

3) 全般

- ・ホームステイ先の情報とかをもっと知りたかった。
- ・もう少し費用が安くなるとうれしい。
- ・もう少し留学期間が長くてもよかった(3週間では短く感じた)。

4. 短期留学プログラムに参加して(経験の意味)

1) 異文化体験

- ・異国の地で生活することで、今まで日本では経験できなかった言葉の壁、文化の違いを学ぶことができてよかった。
- ・ホームステイや買い物など、色々な所でオーストラリアの文化について知ることができた。

2) 視野が広がった

- ・異文化に触れるのは初めてだったので、考え方の幅が少し広がった。たった3週間だったが、こんなにも密度の濃い3週間で過ごしたことは今までなかった。
- ・後期からの学習において、他文化を学んだり、自分の知らない分野も勉強して広い視野で物事を見られるようになっていと考えている。
- ・今回の経験は私にとって、他の視点を持つきっかけになった。施設を回り、「No Lift」のポリシーを知り、看護というものがある何か再度考えさせられた。自分の体のことも考えてケアするという当たり前のことを根本において看護するオーストラリアのポリシーにはとても衝撃を受けた。他にも色々衝撃を受けたことがあり、これからの看護やより良い医療をしていくために必要なことを考え、変えていけるようなことができれば良いと思う。
- ・異なる文化、民族、習慣、言語に触れ、体験することで、多くを学ぶことができた。今後も世界の医療を考える時の視点としていきたい。
- ・とてもいい経験になった。海外の医療について知ることができ、日本と比較し、興味を持つことができた。
- ・海外での医療の携りについて考える機会になった。また、日本という狭い世界でなく広い視野でものごとを捉えるようになった。人間としても成長した気がする。実習等でも他国ではどうだろう、と考えるようになった。
- ・今後、実習に行って日本の施設とオーストラリアの施設の良

い点・悪い点を見ることができると思うので、今回、施設見学をすることができて良かった。

3) 学習へのモチベーションの向上

- ・モチベーションが上がったことにより今後以前よりは勉強すると思う。
- ・カーティンの学生の熱心な学習に対する姿勢を見て、やる気が出た。
- ・勉強に忙しく、息づまっていた時期でもあったが、今回、このプログラムに参加できたことで、オーストラリアの医療・文化・人・施設・自然などに触れることで様々な刺激を得られ、狭まっていた視野が広がった。
- ・ホストファミリー、カーティンの学生、信州大学の他の専攻の学生、先生との交流もまた、刺激になった。
- ・勉強へのモチベーションが高まり、自分のこれからの進路選択の幅を広げるよい影響を与えてもらった。

4) 積極性の高まり

- ・ホームステイをしたり、町へ買い物に行くことで、積極的に行動することができるようになった。
- ・私は初めての場所や人だと、うまく会話できないところがあったが、オーストラリアの人は初対面でも気にせず声をかけてくれたので、それがすごくうれしかった。声をかけられて不快に感じず、とてもうれしかったので、今後はもっと人と積極的にコミュニケーションをとろうと思う。

5) 英語学習への意欲

- ・英語に関しては、課題が明確になったので、今後も積極的に取り組んでいきたい。
- ・もっと英語を勉強して、多くの人とコミュニケーションをとりたいと思った。
- ・英語をさらに勉強しようという意欲がわいた。これから、TOEICなどの英語の試験を通じて自己の英語能力を高めていきたいと思う。
- ・英語の必要性をとっても感じた留学であった。これからはもっと英語の勉強をしようと思う。
- ・自分の英語力の不足を痛感したので、もっと英語を身につけてコミュニケーションを十分とれるようになりたいという気持ちが高まった。これは英語を勉強する意欲につながった。
- ・海外に将来行くかどうかは分からないがまず英語の勉強をしようと思った。
- ・色々な施設に行ったり、授業に参加できたことはもちろんよかったが、私は、英語を話す機会があんなにもあり、家などで英語しかしゃべることができない環境に自分をおけたことが本

当によかったなと思う。今回のことで、英語を話すことがすきだなと実感した。

- ・以前より積極的に英語を使っていきたい、学んでいきたいという気持ちがうまれたことが、将来に役に立ったかなと感じることの1つ。これだけで終わりではなく、この経験を生かしていけるように世界を視野に入れた学習をしていきたいと思った。

6) 将来的な海外での勉強・仕事・生活への意欲

- ・今後またもう一度、海外で生活をして、自ら考え、行動する力を身につけたり、異文化に触れ、自分の視野を広げたいと思うようになった。
- ・将来は海外の院で学んでみたいと感じた。また、経験をつんでから海外でも仕事をしてみたい。日本と異なるシステムや医療を見てみたいと思う。
- ・将来、もしチャンスがあれば、外国で仕事ができればと強く思った。
- ・AUの大学での講義は非常に合理的で、深いというか、理解のしやすいものだった。一度、しっかりとAUで学習してみたいと感じた。
- ・将来の海外での仕事という選択肢も増えた。



(Curtin 大学)

C 研修に対する満足度

		平均点(5点満点)	標準偏差*1
スホ テ イム	(1)費用	3.13	10.69
	(2)交通の利便性	3.80	12.94
	(3)食事	4.00	13.61
	(4)ホストファミリー	4.47	15.19
	(5)全体の満足度	4.33	14.73
英 語 の 講 義	(6)3週間にわたる英語の授業	4.27	14.50
	(7)始業・講義時間	4.20	14.28
	(8)講義内容	4.00	13.60
	(9)講義レベル	3.93	13.38
	(10)全体の満足度	4.13	14.05
講英 講語 以の 外	(11)始業・講義時間	3.27	11.13
	(12)講義内容	3.93	13.37
	(13)講義レベル	3.53	12.02
	(14)全体の満足度	4.00	13.60
施 設 見 学	(15)見学の時間	4.13	14.05
	(16)見学内容	4.07	13.84
	(17)見学説明のレベル	3.80	12.95
	(18)見学施設	4.20	14.28
	(19)全体の満足度	4.07	13.82
研 修 全 体	(20)実施時期	4.07	13.82
	(21)期間	3.73	12.70
	(22)コースの構成	4.20	14.28
	(23)Curtin 大学スタッフの対応	4.33	14.73
	(24)信州大学スタッフの対応	4.47	15.18
	(25)信大教員の講義参加	4.40	14.96
	(26)全体の評価	4.40	14.95

*1 回答の散らばり具合を示す。大きいほど回答が散らばっている。

- ・コースの内容的なことに関しては、(1)費用や(2)交通の利便性などで比較的点数が低くなっている。研修全体の(21)期間で点数が低いのは、研修に慣れてきた後に、もう少し長い方がよかったという評価が多いためと思われる。
- ・英語の講義以外での(12)始業・講義時間への点数の低さは、9時前と開始時間が日本に比べて早い専門の講義が多かったためと思われる。
- ・(12)講義内容、(17)見学説明のレベルの点数の低さは、英語での説明が十分に理解できなかったという解釈と、説明が不足していたという解釈との2つが考えられる。

学生レポートおよび感想文

1) Curtin 大学短期留学に参加して

看護学専攻 4年 山中美絵

私は海外に行くのは今回が初めてで楽しみでもあったが、オーストラリアでの生活はホームステイということで、出発日が近付くにつれて不安も大きくなっていった。しかし、今回3週間のこのプログラムに参加して、とてもいい経験と忘れられない思い出ができ、参加して本当に良かったと感じている。

Curtin 大学での3週間は、主に第1週目は English class, 第2週目は授業の聴講と English class, 第3週目は病院見学だった。

English class では、オーストラリアの文化やコミュニケーションなどについて学んだり、医療英語を学んだりした。医療英語は、症状や痛みの表現の仕方、診察時に使う言葉などを学んだ。

授業の聴講では、オーストラリアのヘルスケアや、創傷アセスメント・創傷処置についての講義や、性感染症やたばこの害、若者のボディイメージに関するグループワークの発表の授業に参加した。創傷アセスメントやグループワーク発表の内容は、日本で学んでいることと同じような内容だった。しかし、ヘルスケアについては異なっていた。オーストラリアでは子どもへの予防接種に力を入れているようだった。日本では当たり前のように行っている予防接種が、国が変わると国の政策の1つとして力を入れて取り組まれていることに驚いた。オーストラリアは広い国土で、移民が多いことなどが予防接種普及の障害になっていることを知り、それぞれの国の文化によって問題となるものが違ってくるということを知り、この授業を受けて改めて知ることができた。

病院見学では、老人保健施設、子ども病院、産科の病院見学に行った。老人保健施設は私立の施設だったためかホテルのようにとてもきれいで驚いた。ほとんど自立していて介護度が軽度の入所者の部屋は、玄関やポストがあり普通の家に住んでいるかのようなデザインだった。また、認知症などがなく気品に振る舞える軽度の入所者だけが参加できるお茶会が行われていて、参加する入所者は男性も女性もおしゃれをしてくれるため、施設にいながらも以前の生活にもあったような、おしゃれをして出かける気分を味わえることができていいなと感じた。

ここにいた医療従事者は NS, OT, PT などの他に、OTA(OT アシスタント), PTA(PT アシスタント)という職種の方がいた。日本では OT, PT が患者と接しながら

ハビリを行なっているが、ここでは OTA, PTA がリハビリを行い、OT, PT は患者のアセスメントなどのデスクワークが主ということで、日本よりも業務分担が細かく分かれていることを知ることができた。

また、オーストラリアでは「患者を持ち上げない」という考えのもとでケアが行われていることを知った。椅子の後ろにローラーがついていて患者をそのまま移動させることができたり、ベッドからの移乗の際にはその人の状態や体型にあったリフトを使ったり、患者への負担を少なくし、かつ医療従事者への身体の負担も無くすということで、「持ち上げ禁止」が徹底されていた。日本の病院は時間に追われ業務をこなしているイメージだが、オーストラリアは「人」を大切にしている感じがした。

それは子ども病院の見学でも感じる事ができた。見学に行った子ども病院には、ゲームセンターのようなどころがあった。病院で治療を受けるだけでなく、病院にいても健常児と同じように遊び、社会体験ができる工夫があった。遊んでいる子どもに急変が起きてもすぐに対応できるシステムも整っていた。産科病院の見学では、普通分娩であれば24時間で退院、カイザーでも3日で退院という、日本よりも在院日数がとても短いことに驚いた。在院日数が短い分、退院後の看護師や助産師の自宅訪問などのサポート体制も整っていることがわかった。

3週間のホームステイは、貴重な体験だった。学校から帰りその日にあったことなど、伝えたいことがなかなかうまく伝えることができなかった時でも、ホストファミリーは私が最後まで話し終わるまで話を聞いて理解しようとしてくれた。また、ホストマザーが言ったことが聞き取れず、聞き返した時も簡単に分かりやすい単語にしてゆっくり言ってくれた。英語が苦手な私にとってとてもうれしかった。

また、伝えたいことがうまく言えずに、正直、伝えることを諦めようとしたことがあったが、諦めずに辞書などを使って、ちゃんと相手に伝えたいことが伝わった時はとてもうれしく、満足感があった。私のホストマザーは1人暮らしだったが、滞在中に息子さんの誕生日パーティーがあり家族みんなが集まる場に、一緒に参加させてもらった。沢山は会話できなかったが、みんなが私を受け入れてくれてうれしかった。

休みの日には買い物や観光、パースマラソンでウォーキングに参加した。オーストラリアのお店は、平日は夕方5時に閉店だったり、日曜日なのにデパートは休みだったり、日本では考えられないこともあったが、これ

がオーストラリアらしい文化を感じることができた。観光では、動物園でのコアラやカンガルーなどの動物との触れあいや、海などへ行ったことが印象に残った。パースマラソンでは、ベビーカーを押しながら参加する親子が多くいて驚いたが、日本との文化の違いをここでも感じることができた。

ホストマザーとの生活や Curtin 工科大学での授業、友達との買い物や観光など、とても楽しい3週間を過ごすことができ、オーストラリアを満喫することができた。もっと英語を勉強して、たくさんコミュニケーションをとれるようになって、またいつかホストマザーのところを訪れて、たくさん話したいと思った。

この3週間の貴重な体験を、今後の生活の中や就職後の職場で、何かの形で活かしていきたい。



(図書館案内の様子)

2) 刺激を受けたカーティン大学での講義

理学療法学専攻 3年 川澄 広大

私はオーストラリアの文化、生活、そして理学療法について知りたいと思い、このプログラムに参加した。パースでの生活はとても大変だったが楽しいものであった。

オーストラリアでの生活は、自分の英語の会話能力が乏しく、相手がどんなことを言いたいのか理解できないことが何度もあった。また、自分が言いたいことをなかなか伝えられないこともあった。コミュニケーションを上手に取れないことによるストレスはかなり大きいものだった。しかし1週間ほどすると、相手の言いたいことが次第に分かるようになってきた。海外での生活に慣れ始めて気持ちが落ち着いてきたからだろうか。このころから積極的に会話ができるようになっていった。

今回、このような経験からコミュニケーションの大切さについて学んだ。これは日本語でも同じことで、自分が何も言わなければ自分がどんなことを考えているのか、どうして欲しいのか、何に疑問を抱いているのか、という

ことがわからないままになってしまう。このことを改めて実感した。

パースではバリアフリー化が日本に比べて進んでいると感じた。オーストラリアでは公共交通機関で車椅子を利用している方を多く目にした。ほとんどのバスには車椅子の方のための車椅子スペースが2箇所ほどあり、電車ではすべての入り口のとりに車椅子スペースが設置されていた。駅にはエレベーターが設置されており、段差が高いバスでは運転手・乗客の方たちが車椅子の方と一緒に持ち上げて乗車させる様子を何回も見た。また細かい住宅地まで舗装された歩道が続いており、日本と違って車椅子の方たちに対してよく整備されていた印象がある。細かい住宅地の中にまで歩道が整備されていることから、パースでは、障害に対する高い意識がかなり早くから存在したのではないかと思った。また市民も障害者に対しておもしろい気持ちを持っているのだと思い、心が温まるような気がした。

カーティンの理学療法の一学年には学生が100人ほどいて、1クラス20人くらいずつに分かれていると聞き、人数の多さに驚いた。実際に理学療法教室に入って授業の様子を見たときには、授業の行い方は信州大学と同じような形で行われていたが、学生の発言量が私たちに比べてとても多いと感じた。どの学生も自分の意見をはっきりと持って発言しており白熱した討論をしていた。2年生のクラスの授業に出席したときには、私たちが3年時に学ぶ技術を練習しており、とても進度が早いことを知った。

カーティン工科大学では、学内にクリニックがありここで実際に患者を診て治療を行っていた。私たちがクリニックに行ったときには4年生が実習を行っていた。実習生たちは自分たちで評価を行い、治療計画を立てそれを教員に確認して、治療を行っていた。学内で一般の患者を受け入れていることに非常に驚いた。

また教室の隣にある研究施設を見学したが、研究を行うドーム状の部屋があり、実験を行うための道具がしっかりとそろっていて研究を行うのにこれほどいい場所はない、という感想を持った。オーストラリアで理学療法を勉強している学生たちを見ることで大変励みになった。

週末には信州大学のみんなといろいろな場所に観光に行った。1週目はロットネスト島に行ったが、自転車で行った。自然の中を走り回り大変満足だった。見たことの無い植物を多く見ることができた。2週目のカバシャム野生動物公園ではカンガルー・コアラ・ウォンバットなどのオ

オーストラリアを代表する動物と触れ合うことができた。ピナクルズでは自然が生み出した不思議な光景が広がっていた。人工物の多い都市部から離れてオーストラリアの大自然に触れることで、改めて自然の大きさ、すばらしさを体感した。

今回は、私にとって初めての海外旅行だったが、オーストラリアは生活・学習環境がよく非常に居心地が良かったので充実したプログラムであったと満足している。



(英語のクラス)

3) 英語学習へのモチベーションが高まった3週間

検査技術科学専攻 3年 伊波若葉

3週間の留学プログラム、実際行ってみるまでは3週間は長いと思っていた。しかし、いざ行ってみればあっという間に過ぎてしまった3週間だった。今回私がなぜこのプログラムに参加したかと言うと、第一に英語が苦手だったからだ。中学生のころから英語は不得意で、毎回試験では苦勞していた。特にリスニングに対してはコンプレックスがあった。しかし、英語は嫌いではなく、いつか話せるようになりたいと常に思っていた。

そんな中、信州大学に入学にした際に保健学科にはカーティン工科大学の留学プログラムがあることを知った。先生には検査専攻は3年生で行くのがベストだと思うと言われていたので、3年生になったらぜひ参加したいと思っていた。このプログラムはホームステイなので私の苦手とするリスニングの克服と、オーストラリアという外国での医療を知ることができるというまさに一石二鳥のプログラムだった。

1, 2年生の頃は留学費用を貯め、3年生になって留学のオリエンテーションに参加した。そこで先生方や先輩から体験談や実際の様子を伺い、とても魅力的に感

じた。参加することが決まってからは出発するまでが早かったように思う。前期試験もあったので平行して準備するのは大変だった。英会話の勉強もしてから行くつもりだったが、前期試験後は荷物の準備で終わってしまい、結局行きのバスの中でみんなと勉強した。

オーストラリアに着いてからは、周りは外国人だらけ表示は英語で値段はA\$…とオーストラリアだから当たり前だが、海外渡航初の私にとっては未知の世界に来てしまったようだった。バスの案内も英語で話している内容も半分聞き取れればいい方で、私はここで生活していけるのか少し不安に感じた。

カーティン工科大学に着いてみての第一印象はとにかく広いということだった。広場や購買、カフェもいくつかあり、特に興味を引いた建物は6階建ての大きな図書館だった。コンピュータや自習室は充実していて、チェスができる机など談話スペースのような所もあって私なら毎日寄ってしまいそうだったと思った。

ホストファミリーとの対面。今思うとこれが最も緊張した瞬間かもしれない。名前を呼ばれ一人また一人とホストファミリーと共に去って行く。寂しいようなわくわくするような不思議な感覚だった。私のホストファミリーはマザーとその娘、そして犬が迎えに来てくれた。事前の情報で私より年下の姉妹が2人いることは知っていたが、実際に会ってみれば本当に年下か疑ってしまうほど大人っぽく感じた。家ではホストファザーが待っていてくれ、少し話はしたものの、やはり何を言っているのかわからない。とても簡単な単語を選んでくれていることは感じとれるものの、何と返事をすればいいのかわからない。正直3週間過ごしていけるかととても不安だった。

しかし、日ごとにホストファミリーとの会話は増え、一緒にテレビを見たり、散歩に行ったりするようになった。また、夜ごはんは日本とは異なる料理が多く、地元の家味の味を楽しむことができた。最初は不安でいっぱいだったホームステイ生活も振り返ると、充実して良いものだったと思う。ホームステイならではの貴重な経験をする事ができた。

大学では英語の授業も医療用語に関する事だったので楽しみながら受けていた。2週間目に入り、専攻別の授業が増えてくると、授業体制や実習面で日本との違いを目の当たりにした。講義内容はすでに学んだ部分であったので英語でも雰囲気をつかむことはできたが、日本と違い授業中に積極的に質問している人や発言する人が多く見られ、私も見習おうと思った。

オーストラリアでは授業中だけでなく、家や駅などで

も積極的になることが大切だと感じた。私はどちらかと言えば消極的な方なので、初めはわからないことも人に聞けず、YES、NOをはっきり言えなかったが、生活していくうちに自ら行動するようになっていった。このことも留学によって成長できたことの1つだと思う。

3週目はいくつかの病院施設や赤十字の見学に行った。子供病院は日本の病院とはまったく異なり、子供中心に考えられた設計でアミューズメントパークのように驚いた。検査部は日本と同じような設計だったが、採血室はまた違った造りになっていて興味深かった。様々な施設を見せてもらい、将来はこういう環境でも仕事をしてみたいと感じた。また、カーティンの教授に大学院の話などを詳しく聞き、魅力を感じた。

今回の留学では自分の英語の勉強不足を痛感した。特に医療英語となると専門用語なので自分の語彙の少なさを感じた。しかし、将来はまた海外に渡って勉強したいと強く思った。そのためにもこれからはもっと英語の勉強をしようと思う。3週間という短い期間だったが、新たな仲間が増え、リスニングや精神面でも少しは成長できたのではないかと感じる。また将来に向けて向上心も生まれ目標もできた。多くの貴重な経験、時間を過ごせたこの留学プログラムに参加して本当に良かったと思う。この留学にあたって私を支えてくれたすべての人たちに感謝したい。



(実習風景)



(カフェでミーティング)

4) オーストラリアの文化から学んだこと

作業療法学専攻 3年 櫻井美穂

今年の夏、私は Curtin 工科大学短期留学プログラムに参加した。私は大学に入学してからずっと、このプログラムに参加することを楽しみに大学生活を送ってきた。ようやく今年、3年間アルバイトにて少しずつためてきたお金を使い、このプログラムに参加することができた。

この3週間、私は60代の夫婦の家にホームステイをした。この家庭には、私、一緒にプログラムに参加している信州大学の学生、そして香港からの留学生の3人がホームステイをしていた。この家で過ごした3週間は、この家のルールに従い、本当に楽しく過ごすことができた。また、一番日本との文化の違いを目の当たりにできたのは、家で過ごしている時であった。家の中で靴を履くこと、ナイフとフォークでの食事、英語での会話など様々な文化の違いがあった。

3週間の間に特に朝早くに家を出て学校に行かなければならない日が、2日間あった。あまりに朝が早いことに驚いたホストマザーは「遅刻しちゃだめなの？みんな時間通りに来るの？」と私に問いかけたのである。この問いかけはジョークではなかった。私のホストファミリーは遅刻することに対して、それほど悪いイメージを持っていないようであった。また、一緒にホームステイしていた香港からの留学生は違う学校に通っていたのだが、クラスの4分の1が15分程度遅刻してくると私に話してくれた。このことは、私にとって驚きであった。日本人は、海外から学生を預かり、ホームステイとして受け入れた時に、「遅刻しちゃだめなの？」というように聞く親はほとんどいないだろう。

また週末には、様々なところに出かけ、パースの観光をすることができた。プログラムに参加する前は「学びに行く」というイメージが強く、多く観光ができるとは思っていなかったため驚いた。また、最後の週末には

パースマラソンが市内で開催されており、それに参加することができた。これは私にとってとても良い思い出となった。この日は町中がパースマラソン一色になり、本当に多くの参加者が道いっぱいに広がってマラソンを楽しんでいた。このマラソンには様々なコースがあり、様々な国から様々なエスニシティの人が参加しているようであった。日本でいう東京マラソンのようなものなのかもしれない。そのため、多くの人と交流し一緒に汗を流すことができた。

そして、学校では毎日様々なことを学ぶことができた。オーストラリアの基本的な医療費の制度、アボリジニーの文化について、解剖学の実習、専門的な実技実習と多くの授業を受けることができた。病院見学を含め、日本とオーストラリアの医療の違い、類似しているところ、信州大学とCurtin大学との違い、類似していることを知ることができた。私は、オーストラリアの医療の進んでいる面を多く見る事ができた。また同時に、日本の医療もオーストラリアに負けていない面がたくさんあるのではないかと感じた。3週間で見てきたこと、知ったことにより世界の医療の違い、その利点と問題点についてさらに疑問が増えた。これらの疑問を解決すべく、これからの学内で、また卒業後の臨床に出てから勉強していきたいと感じた。

また、オーストラリアの学生との交流は私の今後の学習に対するモチベーションを上げた。彼らの夢、それに対する努力を聞くこと、また私の夢について語ることは、とても刺激的であった。もちろん、私の英語力はそれほど高くないので、会話には時間を要し、聞き取れないこと、伝わらないことが多くあったが、彼らのうちに秘める思いは私にとってもよく伝わった。私は、日本の大学で将来のために学んでいる、と言う意識が強かったが、彼らと話したことで、日本だけでなく、もっと広い世界を見れば、もっと将来の可能性が広がることを感じた。しかし、そのためにはまず今、目の前にある課題に一生懸命に取り組むことの大切さも感じた。これからの学習を通して、彼らに負けないような医療の専門家になりたいと思った。

この3週間、本当に多くのことを感じ、楽しみ、学んだ。この経験を、自分の将来に生かすべく、これからも努力していきたい。



(血液学実習終了後、ジェフ先生と)



(ベルタワー)



(パースの町並み)



(パースマラソンに出場)



(ロットネスト島へ向けて)



(ロンドン・コート前にて)



(海辺で記念撮影)



(ウォンバットと記念撮影)



(カンガルーたち)



(Curtin の学生たちと)



(いつもの集合場所)

【編集後記】

9回目を迎えたこのプログラムは、回数を重ねるたびに英語の講義や専門の講義聴講だけでなく、学生がその講義に参加でき、直接オーストラリアの医療講義に触れる機会が増えてきていると思います。また、実際に医療現場を見学するだけでなく、現地スタッフとの交流により、外国での医療を見学だけでなく、社会福祉制度、疾患を抱える人の生活など日本と比較しながら多くを学ぶことができたと感じています。この他にも、ホストファミリーとの生活やバス通学途中での異文化交流、動物園のコアラと写真撮影、ピナクルズ砂漠などの名所観光、パースマラソンの参加と多くの貴重な経験ができ、他専攻の友人ともそれを楽しむよい機会になったのではないのでしょうか？私自身、あまり他専攻の学生と話す機会がなく、一緒に市場に行って日本ではみたことのない食物を試し、マラソン大会前鍋いっぱい盛られた多量の貝と大きなハンバーガーを学生と一緒に苦戦しながら食べることなど、おそらく学内ではできない貴重な体験となり、よい思い出になりました。この機会を得られたことに非常に感謝しています。

日本とは言語や慣習が違う環境において、最初は「日本に帰りたい」という気持ちと「分からないことを知ろう」という探索的な気持ちが入り混じっていたように思えます。その中で、「分からないこと」を試行錯誤しながら、ホストファミリーや現地の方々聞きながら1つずついろんな方法で問題解決していくことができたと思います。最終日には、「もっとここにいたかった」「医療の現場でもっとこういうところをみたかった」など、実際に体験しながら「できる」経験を増やしていくことができ、自信ややるきにもつながる経験と学習をしたと思います。

このような貴重な経験を提供するプログラムは、これまでこのプログラムを守り作り上げてきたスタッフの方々の努力、同窓会からの金銭的援助、保健学科のスタッフの方々によるご助力などに支えられていると思っています。本当にありがとうございました。最後になりましたが、あらためて感謝申し上げたいと思います。

(文責、政時)

.....

「信州大学-Curtin University 大学間学術交流協定に
基づく平成 22 年度夏期海外単位認定プログラム 実施報告書」

2011 年 2 月 1 日

発行責任者:市川元基

編集 :平成 22 年度夏期留学・単位認定プログラム担当チーム

発行 :信州大学医学部保健学科

.....